AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護研究集録 (2020.3) 令和元年度:7.

# 胃瘻再造設を行った2症例の管理経験

日野岡 蘭子, 平澤 雅敏, 宮城 久之, 石井 大介, 宮本 和俊

# 胃瘻再造設を行った2症例の管理経験

〇日野岡蘭子[1)]　平澤雅敏[2)]　宮城久之[2)]　石井大介[2)]　宮本和俊[2)]
1）旭川医科大学病院　看護部
2）旭川医科大学　外科学講座　小児外科

＜症例１＞10代男児。幼児期の窒息による低酸素性虚血性脳症。痙攣四肢麻痺、てんかん、食道逆流症。胃瘻造設および喉頭気管分離術施行。胃瘻からの漏れにより周囲皮膚の広範囲びらんや瘻孔の著明な拡大を認めていた。状態に応じて保護材、軟膏を使用し皮膚の改善と瘻孔拡大予防に努めたが、施設や自宅で継続困難で再造設が選択された。

＜症例２＞20代男性。滑脳症、てんかん。胃瘻造設施行され地元でフォローされていた。胃瘻からの漏れ、埋没を繰り返し前医で閉鎖術施行されたが、漏れ持続による広範囲の皮膚潰瘍を認め当院へ紹介された。多量の漏れに対し軟膏と皮膚保護パウダーで皮膚と排液を遮断し管理、上皮化を認めたところで再造設された。

＜結果＞症例１は管理方法をその都度検討したが一時的な改善にとどまった。症例２は再造設目的の入院であり、手術までの期間で皮膚の改善を目指すことを短期目標とした。自宅や施設など生活の基盤でのケア提供者に継続可能な管理方法を提示できないほどの皮膚トラブルでは再造設の検討を主治医と行うことが必要である。